



フランス工場を視察

SFA

ポンプの確固たる高い品質と技術がここに

Briegleb



※写真1

日本から飛行機で 12 時間。
遠く離れたフランス、首都パリから車で更に 1 時間。
地平線が見えるのかな麦畑の中にその工場があります。

工場視察、第 2 回。
今回も、世界の SFA グループより技術者が一同に本社工場に
会し、技術会議が行われました。
SFA Japan からは技術者の一人、
セールス・エンジニアリング・マネージャーの藤井 稔洋が
今回のフランスの地へ。

日本を代表して技術的な観点と日本のリフォーム事情・環境、
そして日本国内での SFA ポンプ導入事例や製品についての
意見をまとめ、言葉の通じない異国の地へ旅立ちました。

今回はそんな彼の本社工場での経験談をレポートします。

SFA 工場はどうでしたか？

藤井：一言で言うと広い！フランスの田舎とはこんな場所なのか
と思いました。地平線と工場の建物以外周りには何も見えないんです(笑)
質問者：旅行では訪れない場所ですね。すごい経験だ。

藤井：そうですね。

工場に着いて最初に目にしたのは、無数の便器(サニコンバクトプロ)が
山積みされている光景でした。世界各国に輸出するので大量に作り置き
されているようでした。日本ではまだまだこれから認知されて
いく新しい商品ですが、既に世界では定番商品となりつつあるようです。
更にその先に進むと、新製品及び各ポンプの稼働実験を行う装置が
ありました。壮大なスケールに圧倒されました。 ※写真1

工場の技術者が機械や製造工程について詳しく説明してくれました。

言葉の壁は感じませんでしたか？

藤井：全然問題ありませんでしたよ。
私たちは技術者なので、フランス語はもとより英語も話せない
出席者が何人かいたので、私も含め(笑)、通訳を一人つけてくれたので
言葉の壁は感じませんでした。
質問者：社員を大事にする会社ですね。素晴らしい。

工場内の雰囲気はどうでしたか？

藤井：フランス人製造スタッフが目まぐるしく忙しそうにしていました。
長年勤めていらっしゃる方も多く、女性もたくさんいました。
質問者：素晴らしいですね。良い経験をされましたね。

今回の工場視察で何を思いましたか？

藤井：今回の視察で思ったことは、部品の製造はオートメーション化
されていて、組立・検査・梱包作業は人の手で行われていることに
驚きがありました。
組立ラインで製造されたポンプは、検査工程を経て梱包作業へ進み、
世界各国に出荷されていきます。

日本の私達の手元に来るまでこんなにたくさんの人の手を渡って来る
のかと思うと感動しました。

近い将来、それらの作業もオートメーション化されて効率化されて
行くのかと思うと、少し寂しい気持ちも覚えました。

今回の経験で、他国ではどのような課題にぶつかっているのか
知ることができました。

各国で販売されている SFA ポンプの種類も数も国々で違いますが、
それでも、共通のポンプは皆同じ課題を抱えていると実感できました。
例えば、大型ポンプ サニキュービック 2 クラシックの
通気管の長さはどれくらいにするのが良いのかとか。

答えは 10m 以内です。
実際に検証しなければわからなかったことです。

たくさん SFA ポンプと出会い、日本でも使えるようなポンプが
他にもたくさんあると思います。

この経験をもとに、国内の SFA ポンプは私が品質維持させて
いくと決意がさらに強まりました。

SFA ポンプはこれからも日本の水まわり環境に変革をもたらしてい
きます。



SFA Japan 株式会社
セールス・エンジニアリング・マネージャー
藤井 稔洋

SFA Japan の誇る技術者の一人。
全国の SFA ポンプのメンテナンス・技術アドバイスを担う。
卓越した幅広い知識と能力、経験を持している。
根っからの職人気質。